

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成24年10月23日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0890500044		
法人名	有限会社 塚田埋設工事		
事業所名	小規模多機能型居宅介護事業所 やさとの森	ユニット名	—
所在地	〒315-0156 茨城県石岡市吉生3607-2		
自己評価作成日	平成24年3月26日	評価結果 市町村受理日	平成24年10月22日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0890500044&SCD=730&PCD=08
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成24年5月21日	評価確定日	平成24年10月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<ul style="list-style-type: none">・小規模多機能ならではの、急な予定変更にも柔軟に対応し、ご利用者様やご家族様の生活が安定し、住みなれた地域で長く暮らしていけるように支援している。・地域の方とのふれあいを重んじ、地域の方を招いての感謝祭や、福祉学習に取り組む地域の小学生、職場体験学習を実施している中学生を積極的に受け入れている。・「できる事」が増え、自信を持って生活できるよう様々なアクティビティーを取り入れ提案し、活動を支援している。・社会性が保持できるよう、季節に応じた外出行事や、自分の目で見て買い物をするための行事を多く取り入れている。・「声を出して笑う」ことへの健康への影響を理解し、ご利用者の方々にたくさん笑って頂けるよう、明るく楽しい雰囲気づくりを心がけている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>事業所は筑波山などの山々に囲まれ、田や畑が広がる閑静な場所に立地している。 建物はゆったりと過ごせるような設計となっており、風呂場は広く湯船につかりながら筑波山を眺めることができ、床材は滑らないよう特殊な石材を使用している。 代表者は安全と安心を優先しており、設置要件になっていないスプリンクラーをいち早く設置したり、庭にソーラーシステムを設置して昼間に蓄電し、夜間停電した場合でも緊急避難時は電気を点灯させて避難場所まで誘導ができるようにするなど、随所に配慮している。 管理者は職員の個人事情に配慮して勤務体制を組んだり、職員のやりたいケアを取り入れるなど、働き易く遣り甲斐のある仕事ができるよう努めている。 開設当初から勤務している職員は5名と多く、昨年の退職者はいないなど、働き易い職場であり職員の定着につながっている。</p>
--

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を玄関および職員控え室に掲げ、日頃から再確認できるようにしている。また、取り組みが理念に合致しているかどうか話し合いを持つようにしている。	管理者と職員で話し合っ、地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所の理念を作成し、玄関の入り口に掲示して共有を図るとともに、実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	季節や天候に合わせ散歩に出かけ、地域の方との交流を持ったり、地域の方を招いての感謝祭を開催している。さらに、福祉学習や職場体験学習に取り組む地域の学生の受け入れを積極的に行い、地域育成会員として廃品回収への協力や、「駆け込み110番」に登録して地域の子もたちを守る支援を行なっている。	小学校の福祉体験学習を受け入れているほか、鼓笛隊が来訪して演奏を披露している。子ども会の廃品回収に新聞や空き缶を出すなどの協力をしているほか、地域の子も達を守る「駆け込み110番」に登録したり、事業所行事の「感謝祭」に地域の人々を招待するなど、積極的に地域に馴染む努力をして事業所を理解してもらい、利用者が地域とつながりながら生活ができる環境づくりに努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	福祉学習や職場体験の場として提供し、認知症高齢者との交流を通じて、認知症について理解して頂くと共に、感謝祭における地域の方とご利用者の会食や、ご利用者家族との交流により、認知症についての理解や支援についても伝えていく機会を設けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	多くの意見が頂けるよう会議を進行している。震災を受け、地域における施設の役割などについても意見を伺う事ができ、とても参考になっている。	運営推進会議は家族等や市職員、民生委員、区長、管理者、職員で2ヶ月に1回開催している。会議では利用者の状況報告をしているほか、行事予定や行事の結果報告、外部評価の結果報告をしている。 年2回家族アンケートを実施し、「職員の言葉遣いや対応」や「入浴や食事などのサービス面」、「トイレや居間など構造面」など、項目毎に満足度を質問したり、家族等の意見欄を設け結果を集計しているが、運営推進会議で報告するまでには至っていない。	家族アンケートは事業所が理想とする介護のあり方を利用者や家族等と一体になって目指すための一つの方法でもあるので、運営推進会議の委員にも報告することを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所の実情について報告し、アドバイスを受けるなど、質の高いサービスが提供できるよう連携を取っている。	管理者は市担当者に利用者の登録状況を報告したり、スプリンクラーの補助金の相談をするなど、日頃から連絡を密にとって情報交換を行い、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束による弊害については、全職員が十分に理解し、施設の方針である「身体拘束を行なわない介護」という取組みのもと、散歩や外気浴で気分転換を図り、精神的安定を図る事ができるよう努めている。	管理者や職員は内部研修で禁止の対象となる身体拘束の具体的な行為を正しく理解するとともに、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 玄関は施錠せず利用者がいつでも自由に庭に出入りができるようになっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員が高齢者虐待防止について理解している。また入浴時を中心に、利用者の身体状況や皮膚の状態を確認したり、自宅での過ごし方や家族とのかかわり方についての話題を投げかけ、自宅での虐待が早期発見できるよう注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日頃から包括支援センターと連携を取り、必要な方においてはすぐに手続きが取れるようにしている。現在の所、制度活用の該当者はいない。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は十分に説明し理解して頂けるよう努めている。また説明した後、質問事項についても伺い、丁寧に対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設玄関に意見箱設置している。さらに年2回のアンケートを実施している。また、介護支援専門員が訪問時にご意見を伺ったり、送迎の職員がご家族と話をする機会を大切にし、ご利用者やご家族の意見に沿った運営が出来るよう努めている。	職員は利用者から話を聴いたり、送迎時に家族等から意見等を聴いているほか、年2回無記名のアンケートを実施して利用者や家族等の意見や要望を汲みあげるよう努め、出た意見等を運営に反映させている。 アンケートで出た「利用者の席順」や「トイレの汚れ」、「利用料支払い」などの意見を運営に反映させているが、結果を利用者や家族等に報告するまでには至っていない。	アンケートで出た意見等をどう反映させたのかがわかるよう、結果を利用者や家族等に報告することを期待する。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に職員との関わりを大切にし、一緒に介護業務を行なう中で、多方面において意見を交換し、出来る限り意見や提案を反映させている。	管理者は月1回ケア会議や職員会議を行い、職員の意見や要望を聴くように努め、出た意見等を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の大半が子育て中の主婦であり、労働時間や休暇など最大限の配慮をしている。またキャリアパス申請を行い、給与アップ実現に向け努力している。また得意な事が生かせるよう担当などを決め、実務に当たってもらったり、明るく何でも話し合える環境作りに努め、職員の退職が2年間ない状況である。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	知識を身に付けることはより質の高い介護が提供できる事を理解してもらい、各種研修会の案内を職員に回覧し参加を呼び掛けている。また個人に対し、公的資格取得を目指すよう促し、学習方法などについても相談に乗り支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	石岡市地域密着型介護サービス事業所協議会に加入し、勉強会や同業者との交流の機会を持てるよう努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用開始時は、様々な不安を抱えていることを十分理解し、本人の立場に立って丁寧に話を伺い、共感の態度で接している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用希望相談時や体験利用の際に、十分に現状や不安について伺い、サービスで補える範囲や対応について相談に応じるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族、ご本人のニーズを十分に伺い、必要に応じたサービスが即開始できるよう支援している。また不必要な抱え込みは行わず、問題解決が図れるサービスの提案や支援を積極的に行なっている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	これまでの生活歴やできる事に着目し、ご本人が必要とされていると感じる事ができるよう、また、本人が主体となって暮らせるよう、共に過ごす大切な一員となるよう努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者にとって、今も昔と変わらず大切な家族の一員であるという喜びや安心を持って頂けるよう、これまでの家族との関わりを十分に理解しながら、本人の感謝の気持ちを代弁する事で家族との絆を深めたり、家族との外出支援の手伝いをしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	作物を作り続けてきた畑を見に行きたい、などの希望があれば一緒に見に行ったり、冠婚葬祭や不在者投票など要望があれば支援している。	職員は利用者が気にかけている利用者の畑と一緒に見に行き野菜を収穫したり、利用者の馴染みの店に付き添い買い物ができるよう支援している。 家族等が付き添えない場合の不在者投票や墓参りなどは、距離によって有料で支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の会話や日常の様子から、お互いに支えあい、誰もが楽しく過ごせるよう、座席の配置やレクリエーションの工夫などを行なっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	困った事があればいつでも連絡を頂くようお話し、公的機関での書類の申請や手続きを支援させて頂いたり、さまざまな相談に柔軟に対応したりしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の生活歴や日常会話の中で発する言葉、懐かしい話から、本人の意向や思いを把握できるよう努めている。困難な場合は、ご家族からの聞き取りにより、これまでの行き方や志向を伺い、本人の望むであろう暮らし方を検討している。	職員は日々の係わりの中で利用者に声をかけ思いや意向を聴いたり、利用開始時のフェースシートや自宅での出来事を記載した連絡帳から意向の把握に努めている。 意思疎通が困難な利用者の場合は、利用者の今やこれまでのことをよく知っている家族等から話を聴いたり、日々の行動や表情から思いを汲み取るよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始時にサービス利用までの経過を紹介機関などから確認し、把握に努めている。またご本人、ご家族との初回面談時や日常会話の中で、生活歴や生活環境の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自宅での様子をご家族ご本人に伺ったり、受診時のようすを確認するなど、現状の把握に努めている。また管理者、介護支援専門員も日常の介護をスタッフと共に行い、心身の状態変化や残存機能の把握が行なえる様努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	自宅において暮らす一人暮らしの高齢者の場合などは、民生委員や社会福祉協議会の関係者と連絡を取り合い、社会資源や本人の力を最大限に発揮できるよう意見などを反映させた介護計画書の作成に努めている。	介護計画は利用者や家族等の希望を反映させ、6ヶ月毎に見直している。 管理者や介護支援専門員、職員でカンファレンスを行っているが、必要な場合は利用者や家族等、医師などの関係者を加えて話し合い、現状に即した介護計画を作成している。 介護計画作成にあたりカンファレンスをしているが、ケアの根拠となる話し合いの記録を残すまでには至っていない。	カンファレンスの日時や参加者名、話し合った内容を記録に残すことを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間で情報を共有する事の大切さを理解し、記録への記入にとどまらず、日常的に話し合いを持ち、より良いケアが行なえる様努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通所予定日以外の日でも、電話連絡により通所の受け入れを行ったり、体調不良などを理由に休む場合は訪問介護に切り替えたりするなど柔軟に対応している。また通所利用時間も、都合にあわせて送迎時間は希望に沿うよう配慮している。希望により通所の時間内に買い物支援も行う事などある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市が独自で行なっているサービスや民生委員による支援、また古くからお付き合いのある近隣の方などのボランティアを活用し、豊かな生活が送れるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	信頼しているかかりつけ医の受診が継続できるよう、医療相談員と連携を取ったり、入退院時の情報交換などを行い、医療機関との関係を築き、適切な医療が受けられるよう支援している。	医療機関への受診は家族が付き添っているが、単身高齢者の利用者や家族等が対応できない場合は、職員が訪問サービスとして支援をしている。 薬局から貰う薬が分包化していない場合は、一包毎に日付けや名前を書き、間違いなく服用ができるように支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状態変化や家族からの情報は常に看護師に報告し、必要な指示を仰いだり、家族に看護職員から連絡を入れるなど適切な医療が受けられるよう支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の医療相談員との連絡をとり、本人の状態について情報交換を十分に行い、早期退院や今後のケアについて話し合っている。また必要に応じて医療機関へ訪問している。また日頃からソーシャルワーカー親睦会に参加するなど、スムーズな連絡調整を図れるよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、終末期や重度化した場合、また緊急時についての施設の対応、支援の方針について十分に説明し、ご理解いただいた上で同意をとっている。	利用者や家族等から看取りの強い希望があり、事業所でできることとできないことを説明し、その条件のもと看取りの支援をすることを説明し、同意を得たうえで看取った事例がある。 殆どの利用者は医療を必要とする状態になった場合に、病院などに搬送し入院となっている。 病院に搬送する基準や判断について、十分な職員研修を実施するまでには至っていない。	緊急時に利用者一人ひとりの状態にそった対応ができるよう、病院に搬送しなければならない症状や時期などの判断について、十分な職員研修を実施することを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修を行なうと共に、利用者の個々に応じたりスクを想定し、日頃から看護師より指導を受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を通じて、避難経路や方法を繰り返し確認している。施設裏にお住まいの方には協力を得られるようお話してある。	災害時対応マニュアルを作成し、職員はマニュアルに基づいた内部研修や救命救急の外部研修を受講している。 避難訓練は年2回利用者や消防団、近隣住民の参加を得て実施している。 避難誘導の呼びかけをした居室としなかった居室があったり、火元の前を行き来する職員がいたなど、訓練で明らかになった問題点を話し合っってマニュアルを見直すほか、マニュアルにそった対応を徹底させるなど、改善に向けて取り組んでいる。 災害時に備えてインスタントラーメンや缶詰、飲料水などを備蓄している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりが、かけがえのない存在であることを理解し、プライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めている。接遇についても介護主任や介護支援専門員からスタッフに話をしている。	プライバシー保護に関するマニュアルを作成するとともに、職員はトイレ誘導時には利用者の耳元で声をかけたり、耳が聞こえ難い利用者には筆談で促すなど、利用者一人ひとりの誇りやプライドを損ねない対応に努めている。 個人情報等の書類は事務室の鍵のかかる書庫に保管している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いや意向には日頃から耳を傾け、実現できるよう精一杯の支援をしている。また意見の表出が困難なご利用者にも、いくつかの選択肢を設けるなど表出しやすくしたり、過去の生活歴などから察するなど、出来る限り自己実現が図れるように努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設の中での過ごしやレクリエーション、さらに外出プログラムにおいても、一切強制はせず、ご本人の体調やその日の気分を伺い、無理なくゆっくりと過ごせるよう配慮している。また積極的に趣味の活動などを行ないたいご利用者には、活動がスムーズに行なえる様支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望者には月1回の散髪を実施。また季節の変わり目には買い物などを実施し、自由に洋服を選んだり、化粧品（クリームなど）の購入を支援している。また月1回行なう誕生会の誕生者の女性には、希望に応じてお化粧する事もある。			

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	地域で取れた野菜やご利用様の収穫した野菜の下ごしらえを行ったり、食材をどの様に調理したらよいかなどアドバイスを頂いている。また一人ひとりの嗜好を似合わせたメニューを提供したり、ウッドデッキで炉端焼きなども行なっている。	利用者は職員と一緒にできる範囲で下ごしらえをしたり、食後には食卓の食器をまとめたりしている。 職員は利用者と同じテーブルを囲み、見守りや食事介助をしながら和やかに食事ができるように支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量や食事量は毎回確認し、記録している。また医療機関の指示による減塩やカロリー制限も行なうご利用者もいる。食事の形態についても、状態にあったものを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを推奨し、自分で行なうことが困難なご利用者については支援している。また食後に関わらず、来所時すでに口臭や食べかすが口の中に残っている方については随時行なっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	毎回失禁となってしまう方や尿便意のない方もいますが、どなたにもトイレに行き、排泄の動作が維持でき、尊厳が守られるよう支援している。また夜間においても、ポータブルトイレを使用して頂くなど、完全オムツは一切行っていない。	職員は利用者の連絡帳から数日間便秘していることや下痢をしているなどの情報を把握して対応に配慮しているほか、利用者の様子から排泄のサインを察知し、声かけやトイレへの誘導をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師から処方された薬に頼らず、水分補給や乳製品や寒天類、食物繊維の豊富な食品を召し上がっていただいたり、体を動かす事の推奨、入浴時の腹部マッサージの声掛けなどを行なっている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的に、来所時は毎回入浴して頂けるよう配慮している。ただし、強制ではなくご本人のご気分や体調など意向を十分に考慮して行なっています。ヒノキ風呂とガラス窓から見える景色が好評のお風呂で、皆さん入浴を楽しみにしている。	入浴は午前中を基本としているが、利用者の希望にそった時間に入浴ができるよう、個々に応じた対応をしている。 檜風呂に入りながら筑波山が眺められるよう浴室の位置や窓の高さを考慮した設計となっており、入浴は利用者にとって楽しみの一つになっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	和室やベットまたソファと、休息はお好きな場所でして頂けるようになっており、ゆったりと過ごして頂いている。マッサージチェアなども用意しており、大変喜ばれている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者全員の処方内容をまとめ、看護師が保管している。ご本人やご家族の希望により、施設が薬を預かり、一週間分ずつ渡したり、薬をジッパー袋に分封し、日付を記入したりして、飲み忘れ防止や過剰服薬を防止している。処方内容の変更や状態の変化については、家族や医療機関と連絡を取り合い対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	飲酒や喫煙などの制限はないが、現在希望されている方はいない。施設を利用するようになって、趣味が増えた方も多く様々な楽しみごとを提案したり、積極的に楽しめるよう支援している。また洗濯畳みやモップ賭けなども自ら進んで行なうご利用者の方もおり、出来る事が自信に繋がっている方もいる。また外出支援や散歩等気分転換が図れるよう工夫している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人暮らしや隠居している利用者も多く、必要に応じて外出支援を行っている。また長距離の歩行が困難で外出が消極的になっているご利用者の方には車椅子で外出支援を行い閉じこもり防止を図っている。	事業所の敷地は広く、庭続きに畑やゲートボール場があるため、職員は利用者が日常的に散歩やゲートボールを楽しむことができるよう支援している。 利用者が買い物などの希望がある場合は、訪問時や送迎時を利用して買い物に行けるよう支援している。 菊祭りやぶどう狩りなど、利用者が皆で楽しめるよう遠出の日帰り旅行などを支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に大金の持ち込みはご遠慮いただいているが、外食や買い物などのプログラムに参加希望される方には前もってご家族に連絡し、必要範囲内で持参いただき、支払い等の支援を行っている。また生活保護受給であったり、特別な事情により一度に多くの現金の所持に問題がある場合は、身内の方と相談し、お金を預かり定期的にお渡しするなどの支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望に応じて、ご自由にお使いいただいている。通いが中心なため、手紙のやり取りの例はないが、希望があれば支援する。中には自宅に届いた手紙の内容が分からず、持参される方がいるが、ご本人の前で内容を確認し、分かりやすく説明するなどの対応をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日頃から環境整備や空調の調整には十分配慮し、また、和室や洋室、ソファやウッドデッキなど、気分に合わせてお過ごし頂けるようにしている。食後の時間帯はテレビなどの音量を加減し、ゆったりとくつろげるようにしている。また草花を飾ったり、季節ごとの行事にあった飾りをつけるなど、目でも楽しんで頂けるよう配慮している。	建物全体がゆったり造られており、居間は天井が高く明るく広々とした空間となっている。 居間からは庭園や筑波山の山並みが眺められるほか、居間の続きに和室があり、利用者がいつでも横になって寛げるよう配慮している。 テーブルにはバラや牡丹の花を飾り、利用者が季節を感じながら居心地よく過ごせるように配慮している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	宿泊用の空室を自由にお使いいただき、一人でゆっくりと過ごすことができるよう配慮している。またお話を楽しみにしている方には、ソファで談笑して頂けるようソファの配置も工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	宿泊サービスが中心となっている方については、自由に使い慣れたものを持ち込んで頂くことは可能だが、基本的に定期的に短期間で宿泊サービスを利用する方が多く、持込の希望がない。	短期の宿泊が殆どであるが、管理者や職員は利用者が自宅で使い慣れた物品を自由に持ち込んでもらい、居心地よく過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室には暖簾をかけ、浴室である事が分かるようになっている。トイレにも「お手洗い」の札がかかっており、空間の用途が分かるようになっている。生活動線には障害物がないにし、廊下、トイレ、浴室の全てに手すりがついている。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまに <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="checkbox"/> 1, 大いに増えている <input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 3, あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名小規模多機能型居宅介護やさとの森

作成日 平成24年10月22日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	6	運営に関する利用者家族等意見の反映	アンケートの実施	年2回無記名のアンケートを実施し、家族や利用者の意見や要望を汲み上げるよう努力しその結果を報告。今後の運営に反映させる。	次回運営推進会議より2ヶ月
2	10	チームでつくる介護計画とモニタリング	介護計画作成にあたりカンファレンスをしているが、ケアの根拠となる話し合いの記録を残す。	カンファレンスの話し合いの際は、細かく記録を残し反映させたい。	1ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。